

主な出来事

【内政】

- ウィニー・マンデラ女史の葬儀
- ズマ前大統領の起訴
- ノースウエスト州マヒケン住民によるデモ・騒乱

【外交】

- シリア空爆に対する南アの立場表明
- ラマポーザ大統領の英連邦首脳会議出席
- シスル外務・国際協力大臣の英国訪問
- ラマポーザ大統領の SADC ダブル・トロイカ臨時首脳会合出席

【経済】

<経済指標>

- インフレ率
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

<出来事>

- 投資拡大イニシアチブと大統領特使の任命
- 鉱物資源省による改訂鉱業憲章高裁判決に対する上告

【警備】

- 刑務所からの集団脱走事件

1 内政

●ウィニー・マンデラ女史の葬儀

2日、ウィニー・マディキゼラ=マンデラ（※）が逝去。14日にはソウエトのオルランドスタジアムで政府主催による葬儀が行われた。

※故ネルソン・マンデラ大統領の2番目の夫人（96年に離婚）で、マンデラが27年間政治犯として収監されていた間も、民衆の期待を受けとめて反アパルトヘイト運動を展開した。93年から10年間ANC女性同盟総裁を務めた著名な解放運動の指導者であった。

●ズマ前大統領の起訴

6日、ズマ前大統領に対する90年代武器汚職疑惑に関する起訴審理が、ダーバン高等裁判所にて行われ、ズマ前大統領と仏タレス社代表が出廷した。検察側より、起訴を進める用意がある旨の意思が表明され、裁判長は次の公判を6月8日に行う旨言い渡して閉廷。

●ノースウエスト州マヒケン住民によるデモ・騒乱

19日、北西州の州都マヒケン（ヨハネスブルグ西方270キロ）において、スーブラ・マフマペロ北西州首相の汚職及び同州の行政サービスへの不満から、住民によるデモが騒

乱に発展した。このため、英連邦首脳会議出席のためにロンドンを訪問していたラマポーザ大統領は、警察に自制を指示、急遽日程を切り上げて20日に南アに帰国、引き続き住民の言い分を幅広く聴取した上で、対話を通じて解決を目指す方針を表明した。

2 外交

●シリア空爆に対する南アの立場表明

16日、南ア国際関係・協力省は、シリアへの空爆を非難する声明（13日付）を発出したところ概要以下のとおり。

シリア危機が発生した直後から、南アは常に一貫して平和的な解決を呼びかけてきた。南アは、シリア領内における化学兵器の使用に反対するが、安保理決議なしで、主権国家内において空爆を行うことが正当化されるわけではない。この問題は、化学兵器禁止機関(OPCW)及び安保理によって解決されるべきである。

●ラマポーザ大統領の英連邦首脳会議出席

ラマポーザ大統領は英国を訪問し、19日から20日にロンドンで開催された英連邦首脳会議に出席した。17日から18日には、外相会談が行われた。シスル国際関係・協力大臣、ネネ財務大臣及びデービス貿易産業大臣がラマポーザ大統領に同行した。ラマポーザ大統領は、英国に拠点を置く主要な投資家やビジネスリーダーに訴えるためにこの機会を利用した。ラマポーザ大統領は、本年度後半に予定されている投資サミットにこれらの主要な投資家やビジネスリーダーを招待した。また、ラマポーザ大統領は、エリザベス女王を表敬し、メイ首相と会談した他、コモンウェルス・ビジネスフォーラムで基調演説を行った。ラマポーザ大統領及び南ア政府は、2019年から2020年の期間の安保理非常任理事国を選出する選挙のための各国首脳に対するロビー活動のためにこの機会を利用した。

●シスル外務・国際協力大臣の英国訪問

ラマポーザ大統領に同行し、英国を訪問したシスル国際関係・協力大臣は、スコットランド英連邦事務局長と会談した。会談では、包括的な成長、持続可能な開発、コモンウェルス内の貿易及び投資に根ざした繁栄するアフリカを目指す持続可能な開発のための2030アジェンダ及びAUのアジェンダ2063と調和するように、英連邦及びそのアフリカにおける役割を改革することが話し合われた。シスル国際関係・協力大臣は、ジョンソン英外務大臣とも会談し、野生動物の保護及び南アの土地の再配分プロセスにおける協力を話し合った。シスル国際関係・協力大臣は、スコットランド英連邦事務局長及びジョンソン英外相に対し、マンデラ生誕100周年を祝うために南アを訪問することを要請した。

●ラマポーザ大統領の SADC ダブル・トロイカ臨時首脳会合出席

1. 24日、ラマポーザ大統領は SADC ダブル・トロイカ臨時首脳会合に出席するためにアンゴラを訪問した。SADC ダブル・トロイカは、南ア (SADC 議長国)、ナミビア (SADC 副議長国)、スワジランド (前議長国)、アンゴラ (オーガン議長国)、ザンビア (次期 SADC 議長国) 及びタンザニア (前オーガン議長国) によって構成される。

2. SADC ダブル・トロイカ臨時首脳会合では、SADC 地域の政治及び安全保障に関する議論が予定されている。特に、レソトに関しては、SADC の決定の履行、コンゴ (民) に関しては、選挙の準備状況に特別の注意が払われる。また、首脳会合は、マダガスカルの政治及び治安の状況を調査する。

3 経済

<経済指標>

●インフレ率

南ア統計局によると、3月の消費者物価指数（CPI）は3.8%、前月比0.2%減。全体的に2月から3月にかけて物価は平均0.4%値上がりした。

●為替レート

2018年4月30日付（南ア準備銀行）

8.8366 円/ランド

12.3651 ランド/米ドル

14.9803 ランド/ユーロ

●製造業

南ア統計局によると、2月の製造業生産高は、前年同月比0.6%増。主な要因は、食品・飲料で4.3%増、ガラス及び非鉄製製品で12.9%増、自動車及び輸送機器関連製品で5.5%増。他方で、ガソリン、化学製品及びプラスチック製品で2.8%減、木材、木製製品、製紙、出版及び印刷製品で3.1%減を記録。

季節調整後生産高は、前月比2.4%減（1月の前月比は1.6%減、12月は1.0%増）。12月～2月の季節調整後生産高は2017年9月～11月の3ヶ月に比べて0.2%増加し、製造業10部門中6部門でプラスを記録した。

●鉱業生産高

南ア統計局によると、2月の鉱業生産高は前年同月比3.1%増を記録し、最大のプラス要因はダイヤモンドで42.9%増、鉄鉱石で10.5%、マンガン鉱石で24.3%増、さらに石炭で3.9%増を記録。

季節調整後生産高は、前月比0.9%増（1月は前月比1.7%増、12月は前月比4.1%減）。12月～2月の3ヶ月間の季節調整後生産高は、2017年9月～11月の3ヶ月に比べて2.4%減。

●自動車販売台数

南ア自動車工業界（NAAMSA）は、4月の自動車販売台数を発表した。国内販売台数は4月末の連休及び工場労働者らによるストライキが影響すると予想されたものの、販売台数36,346台となり、前年同月比3.6%増を記録。この内、大半の86.6%をディーラー販売が占め、7.0%をレンタカー業界が占めた。国内販売台数のうち、新車販売台数は23,928台となり、前年同月比6.4%増。国外販売台数は24,422台となり、前年同月比0.8%増。

また、南ア自動車工業界は国内の経済情勢に関わる状況の変化に触れ、今後、国内販売が増加すると予想。先月に南ア準備銀行（中銀）が発表した2018年の経済成長率が2.0%であることについて、年間自動車販売台数は前年比3.0%増となると予測。

<出来事>

●投資拡大イニシアチブと大統領特使の任命

16日、ラマポーザ大統領は、南アの景況感の停滞や不透明な規制により経済成長が著しく伸び悩み、高い失業率に直面していることに言及しつつ、国内の経済状況が変わりつつあるこの機会に投資拡大・成長加速に繋げるための「投資の躍進（investment drive）」を立ち上げることを発表。さらに、本年後半に「投資会議（Investment Conference）」を開催することも発表。本会議は、国内外の投資家が参加するもので、具体的な議論及び成

果を実現する決意であるとし、今後5年間で少なくとも1000億ドルの新規投資の実現を目指すことを表明。

また、投資会議のために国内外の投資家への働きかけをおこなう大統領特使を任命。彼らは(1)経験豊富なトレバー・マニユエル元財務大臣、(2)ムセビシ・ジョナス元財務副大臣、(3)プムジル・ランゲニAfropulseグループ会長、及び(4)ジャコ・マレーLibertyグループ会長の4名。大統領特使らは、アジア・中東・欧州・米州の主要金融市場を訪問し、潜在的な投資家との面談及び他のアフリカ諸国からの投資の受け入れを任務とする。これらの活動を「大統領投資評議会」の設置に繋げる計画であることも述べた。

●鉱物資源省による改訂鉱業憲章高裁判決に対する上告

4日、鉱業協会(Chamber of Mines)が鉱物資源省(Department of Mineral Resources)を訴えていた改訂鉱業憲章のBEE所有権に関する規定について、ハウテン州プレトリア高裁は、鉱業協会が求めていた規定(BEE関係者が鉱業プロジェクトに関わる所有権について、鉱業憲章に規定される割合を一度獲得すれば、その後にBEE関係者が所有権を譲渡するなどして所有権の割合が規定値未満となっても良いとする(once empowered、always empowered))を認める判決を下した。他方、一部報道では、マンタシェ(Mr. Gwede Mantashe)鉱物資源大臣は右判決に対して上告しないと示唆していたものの、24日に右判決について異議申し立て(上告)した。なお、右大臣は、5日から5月末までの間に各州の鉱業コミュニティとの議論を踏まえて本年前半までに改定鉱業憲章を取りまとめることとしている。

4 警備

●刑務所からの集団脱走事件

9日深夜、サンシティ刑務所として知られる矯正施設から16人の被収容者が一挙に脱走する事件が発生した。16人はいずれも裁判を控えており、そのうち7人は殺人、3人は性的暴行、その他も強盗等の凶悪犯罪で訴追されていた。これらの脱獄者は、刑務所内の鉄格子や壁等を破壊して脱走した。16人が一挙に脱走したこの事件は、南アにおいて最も大胆な脱走劇とされる。矯正局と警察が脱獄者の行方を追っているが数名を発見するに留まり、全員の逮捕には至っていない。本件については、16人の脱走を手助けしたとして複数の看守が逮捕されている。

矯正局の発表によれば、全国の刑務所から脱走した被収容者は、2015年度に71人、2016年度に50人となっている。また、2015年度には34人、2016年度には37人の矯正局職員が汚職容疑で訴追されている。